

## 田野弘

謹んで田野弘君の御霊にお別れのご挨拶を申し上げます。

短かかった夏も過ぎ、秋の気配を覚え始めた九月五日の夕刻、私は突然君の訃報に接しました。あまりにも突然のことで自らの耳を疑い、にわかに信ずることができませんでした。

お世話になっていた先輩や、親しかった友人が、何の予告もなく幽明境を異にすることの多い今日このごろであります。それにしても未だ五十九歳の働き盛りの君までが、突如として他界されるとは夢にも思い及ばなかつたことでした。何とも訴えようのない人の世のはかなさと空しさを抑えることができません。ご遺族の心中を思うとき、何といたってお慰めすべきか、言葉に窮しております。

思えば、君は昭和十三年、私より二年おくれて東京商科大学を卒業し、小倉石油に入社されました。終戦とともに同社が解散になると、翌二十一年、君は数人の仲間とともに日本陸運産業を

創立し、今日まで一貫して鉄道タンク車による石油、化学品の輸送に精根を傾けてこられました。低廉で能率的な輸送こそが、わが国の産業と国民生活を支える基礎であることを誰より強く意識しておられた君でありました。

その間、君は石油販売業を兼営し、昭和四十七年には倉庫業界に進出し、危険物を安全に格納する東洋一の営業倉庫群を建設されました。さらには、自動車整備業、建設業、出版業、レジャー産業等十指に及ぶ子会社を設立し、日陸グループを創建されるまでに至りました。

また君は多彩な趣味の人でありました。スポーツは必ずしも君が得意とされるものではなかったが、日本の歌舞音曲の類を愛好され、自らも相当の域に達しておられました。今にして思えば短かった君の生涯に滋味を加え、充実をもたらしたのは君の專業的成功に加うるに、この高雅な趣味であったことを心より悦びたいと思います。

君はその高い徳望と強い実践力によって、斯界に抜き難い地歩を固め、その秀れた統率力をもって日陸グループを掌握し、これからの飛躍を各方面から大きく期待されておったのであります。しかるに、天は何の予告もなく、全く突如として君を鬼籍に回収してしまつたのであります。

しかし、君の生涯を通して光彩を放つた誠意と努力、優雅と眞実は未永く世人の心に脈々とし

て鼓動し、人々の生きる道標となることでしよう。君が心血を注いで築かれた事業は、君が亡きあともたくましく成長を遂げていくことでしよう。

小さくともダイヤモンドのような会社をつくらうというのが君の口ぐせであり、変わらぬ信念でありました。君の初志は貫徹されました。日本陸運グループは、珠玉のような存在として世の評価と注目をあびるに至っております。

シューベルトの未完成交響楽は、その名にもかかわらず一点非の打ちどころのない傑作であります。そのように、君の人生もまた、大きい未完成でありながら、同時に完結した傑作であったということができません。

君の肉体の生命の灯は消えようと、君の魂は、君が愛してやまなかつた育子夫人や、ご令息、ご令嬢の中に生き続け不滅の存在に昇華したのであります。

今、君は大勢の先輩、友人等の暖かい友情に護られ永久の眠りにつこうとされております。ここに君が生前に寄せられた切々たる友誼に感謝し、君の偉大さを偲びつつ、お別れの言葉といたします。